

[学校名：神戸市立春日野小学校]

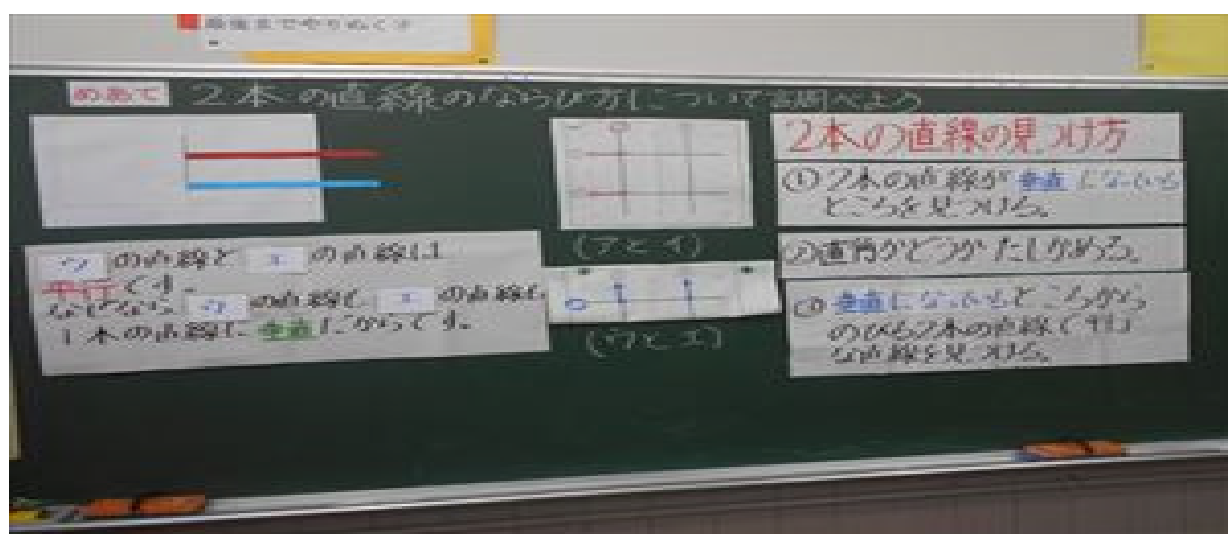
【具体的な研究テーマ】

自分の考えや思いを日本語で伝えようとする子どもを目指して

1 教科：単元名 算数「身のまわりの直線の交わり方やならび方を見てみよう」	
2 実施日（時期） 平成28年6月中旬～6月末	3 実施場所 本校4年1組教室
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子・・・1・2・4・6年に日本語指導が必要な児童がいる。本報告は4年生のみ。 (2) 日本語指導にかかる目標 教科学習の中で必要な学習言語を習得し、自ら意欲的に学習に取り組むことができるよう、「分かりやすい授業づくり」をめざす。 ＜本単元での日本語の目標＞ ○「直角に交わる」、「平行」の言葉の意味が分かる。 (3) 主な学習活動 ・2本の直線が垂直・平行になっているか、一人一人が赤棒と青棒を使って確認する。 ・1本の直線に垂直な2本の直線は平行であることを、ワークシートを使って何度も確認する。 ・本時の学習を振り返り、練習問題を数多く解く。	
5 評価の観点 ○平行の概念を理解することができる。 ○平行を弁別することができる。	
6 指導内容の概要（※指導案別途添付） ・2本の直線の交わり方を調べる活動を通して垂直の意味を知り、その弁別ができる。 ・三角定規を使って、垂直な直線をひくことができる。 ・2本の直線の並び方を、自ら2本の棒を操作して調べて平行の意味を知り、その弁別ができる ・三角定規を使って、平行な直線をひくことができる。 ・四角形を分類する活動を通して、台形と平行四辺形の意味を理解する。 ・平行四辺形を描くことができる。 ・ひし形の意味や性質を理解し、ひし形をかくことができる。 ・算数的活動を通して学習内容の理解を深め、四角形についての興味を広げる。 ・対角線の意味と、いろいろな四角形の対角線の特徴を理解する。 ・長方形、平行四辺形、ひし形を対角線で分割してできる2つの三角形は合同であることを知り、これらを使っていろいろな四角形をつくることことができる。 ・学習内容を活用して問題を解決する。	
7 指導内容・方法において工夫したところ ・指導計画を立てる際、この単元の勉強がどのように繋がっているのか、全学年の教科書を広げて調べた。既習の学習言語、既習でも定着できていない言語を洗い出し、計画的に補った。 ・ワークシートを使って2本の垂直な直線、2本の平行な直線を調べるとき、赤棒と青棒を使うことで視覚的に分かりやすくした。 ・一人1組の赤棒、青棒を持たせて、自ら操作する中で理解できるようにした。 ・発問は「短く、わかりやすく」を心がけた。 ・授業の流れや板書に沿ったワークシートを作成し、学習の振り返りがしやすいようにした。 ・振り返りの時間を15分間は確保するようにし、反復練習により学力の定着を図った。	
8 教材・教具	

- ・ワークシート（毎時間作成）
- ・赤棒、青棒（教師用・児童用）
- ・三角定規（教師用・児童用）
- ・方眼紙

9 活動の様子（写真等）



10 児童・生徒の感想等

- ・三角定規は直線を引くときに使うだけでなく、垂直・平行を調べたり、線を引いたりすることができることに驚きを感じていた。
- ・毎時間、ワークシートを使って授業を進めているので書く作業に追われることがなく、その分多くの練習問題に取り組むことができた。さらに、ワークシートに書かれているターゲットセンテンスを呪文のように何度も唱えることで前時の振り返りや本時の確認ができ、しっかり覚えることができた。

11 日本語能力測定方法と評価（DLA・日本語習得度チェックシートの活用）

年度初めに外国籍児童7人について、DLAの〈はじめの一步〉についている語彙カードを使って語彙力チェックを行った。ほとんどの言葉はよく理解していたが、「運転手」・「消防士」が言えなかったり、「まつげ」を「まゆげ」と言い間違えたりした。チェックすることが語彙を増やすことにもつながると感じられた。

普段は、在籍学級の中で他の児童と一緒に学習しているので、取り出して学習する時間をとりにくい。しかし、1対1でDLAの〈はじめの一步〉を行うことで、児童の言語能力の把握ができるだけでなく、担当教師との心のつながりもできた。日常生活で使う生活言語はある程度分かっているが、学習言語については理解することが難しい。毎日の学習活動の中で教師が意識して「分かりやすい日本語」を使い、「分かりやすい授業」をしていくことを目指している。

12 実践をとおしての成果

本校には、多くの学年、学級に日本語を母語としない児童が在籍しているが、今年度は大幅

に増えた。母語に関係なく、どの児童にとっても「分かりやすい授業づくり」ができるよう、大阪教育大学 臼井准教授に2回来ていただき、教科指導型日本語指導について指導をいただいた。大幅な職員の異動があったが、昨年度までの取組をさらに進めていけるよう、1回目は実際に授業を見て、教科指導型日本語指導のポイントについて指導をいただいた。2回目は、「日本語指導の要素を取り入れた在籍学級での学習支援について」という内容で講話をしていただいた。指導案の作り方や分かりやすい授業づくりのポイントについて理解を深めることができた。教師も意識も高くもち、実践を行っているように感じる。

日本語指導の研修	
4月	・推進委員会の設置 ・「日本語指導が必要な児童についての情報共有」
5月	・推進委員会①（推進体制・計画等の詳細決定） ・校内研修 日本語指導授業研究3年国語（5/24） 授業反省及び本時における教科指導型日本語指導講話 （大阪教育大学 臼井准教授） ・校内研修 特別支援学級に在籍する日本語指導が必要な児童の授業研究 ・校内研修 教科指導型日本語指導講話「教科指導型日本語指導による分かりやすい授業づくり」（大阪教育大学 臼井准教授）（5/30）
6月	・校内研修 授業研究4年算数（6/14） 授業反省及び平成28年度日本語指導研究推進校連絡会
7月	・推進委員会② （1学期の児童の学習状況についての情報交換と今後の研修について）
8月	・夏季研修 日本語指導研修会（外国人児童に対する日本語指導研修）（8/30）
9月	・校内研修 授業研究2年図工（9/14）
10月	・校内研修 授業研究6年国語（10/12） ・校内研修 授業研究4年社会（10/19）
12月	・推進委員会③（研修成果について）
2月	・推進委員会③（今年度の成果のまとめと来年度の取組について）

教師が「日本語の目標」を設定し「わかりやすい授業」を組み立てることで、教科学習の中に出てくる学習言語を意識して指導した。そして、本時の「教科の目標」の達成に不可欠な「日本語の目標」が達成できるように、1時間の授業の中に、①理解支援②表現支援③記憶支援の3つの支援が適切に設定されるように計画を立てるということを意識するようになった。1時間の授業の流れをパターン化することで、日本語指導が必要な児童だけでなく、苦手意識のある児童も見通しをもって安心して活動できるようになった。その結果、意欲的に手を挙げ発言する場面が増えてきた。

13 今後の課題

「教科指導型日本語指導」の研修を全職員で行ったことは、日本語指導が必要な児童だけでなく、本校の全児童にとって有効であった。職員にとっても、「分かりやすい授業作り」を意識するきっかけになった。さらに、教科指導型日本語指導に3年間取り組んできた結果、日本語指導を必要とする一人ひとりの課題が明確になってきた。そのため、より一層個に応じた指導方法を考え実践していく必要がある。

そして、この取組が一過性に終わらず、さらに、進めていけるように、今後も全職員で日々取り組み、児童の学力がさらに定着していくように、継続して研修をすすめていきたい。

第4学年1組 算数科指導略案

1. 日時 平成28年6月14日（火）
2. 教材 身のまわりの直線の交わり方やならび方を見てみよう
四角形を調べよう

3. 指導にあたって

本学級は、与えられた課題を一生懸命取り組もうとする素直さをもった子がたくさんいる。しかし、「この問題をやってみよう。」と声をかけると、課題をこなそうという気持ちはあるのだが、スムーズに始められる子は少ない。また、理解が進められていると想定しているにもかかわらず、子どもたち一人一人が理解できていないことがたくさんあり、細かく説明しなければならないことが多い。5月に、「角の大きさ」を学習した際は、直線と分度器をぴったりと重ね合わせることができなかつたり、どこから角度を数えて解いていけばよいのか分からなかつたり、混乱する子が多数いた。また、同時に2つも3つも作業をすることが苦手と感じることも多い。自分で問題を解こうとする意欲を定着させることや何度も反復練習するなどして基礎学力をつけることも今後の課題である。特に、Yは、母親がフィリピンの方なので、年間で2ヶ月は、母親の母国に滞在する。そのため、ただでさえままならない学習言語の定着が難しい。

図形教材には本単元と関連するものとして、1年生では「かたちづくり」、2年生では「みのまわりから四角形を見つけよう」、3年生では「三角形と角」、5年生では「多角形と円を調べよう」、6年生では「縮図の利用」と系統立った学習が進められていくように考えられている。その中で本単元は、まず、図形の基本概念である直線の垂直、平行についての学習を行う。台形、平行四辺形、ひし形などの四角形について、その図形の特徴を理解し、弁別や作成について学習する。またそれらの作図などの操作活動を通して、長方形と平行四辺形、正方形とひし形について、図形相互の関係や対角線の特徴に着目したりして、四角形の性質をとらえられる学習である。

そこで本単元では、身の回りにある垂直な2直線や平行な2直線、形、平行四辺形、ひし形などを使うことで、垂直や平行が特別なことではなく、身近に感じることができるよう実感させたい。いくつかの段階をふんで図形教材の「定義」「性質」を理解するために、実際自分が三角定規や分度器を使って直線を引いたり、測ったりすることで見につけさせたいと考えている。垂直は、2つの直線が直角で交わるのだが、直角という言葉だけを先走りさせないで、直線の交わり方に着目させ、あくまでも直角は角度のことであり、直角＝垂直とならないように位置づけたい。2直線を意識づけるために、数え棒の赤棒や青棒を用意したい。そして、いくつかの段階をふんで、垂直な直線や平行な直線を描けるようにさせたい。5年生への「多角形の性質」の授業をする時に復習に時間をかけないでスムーズに活動できるようにつなげられるようにしたい。

4. 単元の目標

単元目標		直線の位置関係や四角形についての観察や構成などの活動を通して、直線の垂直や平行の関係、台形、平行四辺形、ひし形について理解し、図形についての見方や感覚を豊かにする。
評価基準	関心、意欲、態度	身の回りから垂直な2直線や平行な2直線及び、台形、平行四辺形、ひし形などを見つけ、それらが使われる場面について考えようとしている。
	数学的な考え方	辺の位置関係や構成要素を基に、各四角形の性質を見出し表現したり、各四角形の対角線の性質を統合的にとらえたりすることができる。
	技能	垂直な2直線や平行な2直線及び、台形、平行四辺形、ひし形を描くことができる。
	知識・理解	垂直な2直線及び、台形、平行四辺形、ひし形の意味や性質について理解し、図形についての豊かな感覚をもつ。

5. 指導計画 (全16時間)

時	目標	学習活動	日本語の目標
1	2本の直線の交わり方を調べる活動を通して、垂直の意味を知り、その弁別ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2本の直線の交わり方を調べる。 「垂直」の意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 垂直の意味が分かる
2	三角定規を使って、垂直な直線をひくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2枚の三角定規を使った垂直な直線のひき方を考える。 垂直な直線をひく。 	<ul style="list-style-type: none"> 直角に交わる2つの直線をひく
3	2本の直線の並び方を調べる活動を通して、平行の意味を知り、その弁別ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 直線の並び方を調べる。 「平行」の意味を知る。 長方形の垂直な辺、平行な辺を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 直角に交わる 直角に交わらない 平行の意味が分かる
4	平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることや、平行な直線の距離は一定であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 平行な直線と、それに交わる直線でできる角度を調べる。 平行な直線は、他の直線と等しい角度で交わることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分度器を使って、2つの直線の角度を調べる
5	三角定規を使って、平行な直線をひくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2枚の三角定規を使った平行な直線のひき方を考える。 平行な直線をひく。 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの直線に直角に交わる2本の直線
6	方眼上の直線の垂直や平行の関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 方眼を手がかりにして、垂直や平行な直線の見つけ方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 方眼紙を使って直角に交わる2本の直線
7	四角形を分類する活動を通して、台形と平行四辺形の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 図を見て、四角形の仲間分けをする。 「台形」と「平行四辺形」の意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 台形の意味が分かる 平行四辺形の意味が分かる
8	平行四辺形の性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さや角の大きさを調べ、平行四辺形の特徴を調べる。 平行四辺形の性質をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 向かい合った1組の辺が平行 向かい合った2組の辺が平行
9	平行四辺形を描くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の描き方を考える。 平行四辺形の意味や性質を用いて、平行四辺形を描く。 問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 向かい合った1組の辺が平行な四角形を描く 向かい合った2組の辺が平行な四角形を描く
10			
11	ひし形の意味や性質を理解し、ひし形を描くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 「ひし形」の意味を知る。 ひし形の性質をまとめる。 ひし形を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ひし形の意味が分かる
12	算数的活動を通して学習内容の理解を深め、四角形についての興味を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> 巻末折り込みの平行四辺形を使って敷き詰めをする。 身のまわりから四角形の形をしたものをさがす。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形を使って形をつくる
13	対角線の意味と、いろいろな四角形の対角線の特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな四角形の頂点を直線で結び、その特徴を調べる。 「対角線」の意味を知る。 いろいろな四角形の対角線の特徴をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対角線の意味が分かる。

14	長方形、平行四辺形、ひし形を対角線で分割してできる、2つの三角形は合同であることを知り、これらを使っていろいろな四角形をつくることができる。	・長方形、平行四辺形、ひし形を1本の対角線で切り分けてできる、2つの三角形について調べる。	・合同の意味が分かる
15	学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	・復習に取り組む
16	学習内容の定着を確認し、理解を現実にする。	・「しあげ」に取り組む。	

6. 本時の目標（3時間目／全16時間）

【教科の目標】 2本の直線のならび方を調べる活動を通して、平行の意味を知り、その弁別ができる。

【日本語の目標】「直角に交わる」、「平行」の言葉の意味を知る。

7. 展開

児童の活動	支援、留意点（・）と評価（○）
<p>1. 問題把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題をつかむ。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">2本の直線のならび方について調べよう。</div>	
<p>2. 見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行の意味を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">赤棒の直線と青棒の直線は、平行です。なぜなら、1本の直線に赤棒の直線も青棒の直線も直角に交わるからです。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①で確かめ方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに縦線が1本入ったものを用意して配る。 ・1本の直線に垂直な2本の直線は、平行であることを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">2本の直線の見つけ方</p> <p>① 2本の直線が直角に交わる場所を見つける。</p> <p>② 直角かどうか確かめる。</p> <p>③ 直角に交わる場所からのびる2本の直線が平行な直線を見つける。</p> </div>
<p>3. 自立解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの②③④を見て垂直な直線を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角定規や分度器をぴったりと合わせて、垂直な直線を調べるように知らせる。 ・困っている児童には、垂直の意味を想起させ、三角定規や分度器の使い方を確認させる。
<p>4. 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、自分の考えを説明し合う。 ・垂直な直線を基に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・②③④で平行になっている直線を調べさせ、平行の意味を覚えさせる。 ・2本の直線が交わらない位置の場合でも、それぞれの直線を延長としてほかの直線と垂直になれば平行であることを知らせる。
<p>5. まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○の直線と□の直線は、平行です。なぜなら、1本の直線に○の直線も□の直線も直角に交わるからです。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・2本の直線が交わってなくても、直線をのばすと交わって直角ができるようなときも2本の直線は垂直である。 ・練習問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を振り返らせながら、練習問題を解くように声をかける。 ○平行の概念を理解することができる。 【知識・理解】 ○平行を弁別することができる。【技能】

日本語の目標

(全 16 時間)

時	日本語の目標	大切な言葉
①	垂直の概念を理解する。	垂直
②	垂直な直線のひき方を理解する。	垂直な直線のひき方
③	平行の概念を理解する。	平行
④	平行な直線がほかの直線と等しい角度で交わることを理解する。	平行な直線とほかの直線
⑤	平行な直線のひき方を理解する。	平行な直線のひき方
⑥	方眼上の直線の垂直や平行の関係が理解できる。	垂直と平行の関係
⑦	台形と平行四辺形の定義が理解できる。	台形 平行四辺形
⑧	平行四辺形の性質が理解できる。	平行四辺形
⑨⑩	平行四辺形をかくことができる。	平行四辺形の描き方
⑪	ひし形の性質が理解できる。	ひし形
⑫	四角形についての興味を広げる。	四角形
⑬	対角線の概念が理解できる。	対角線
⑭	対角線を使っていろいろな四角形をつくることができる。	対角線を使った四角形
⑮⑯	今まで学習してきたことを復習する。	

※ ○の中の数字・・・指導計画の時数

第6学年1組国語科指導案

神戸市立春日野小学校

1. 日時：平成28年10月12日（水） 4時間目
2. 場所：6年1組教室
3. 単元名：よりよい表現を探して、「六年一組独楽吟集」を作ろう
教材名：「たのしみは」（光村6年）
4. 指導にあたって

○児童の言葉の力について

本学級の児童は、「ようこそ私たちの街、神戸へ」のパンフレット作りの学習で、読者を惹き付ける表現にこだわって、パンフレット作りに取り組んだ。「おいしい」や「きれい」という単調な言葉遣いだけでなく、より「食べてみたい」や「見てみたい」と思わせるような表現に触れる機会を設定した。しかし、クラスの中で学力にかなりの差があり、魅力的なパンフレットを作る子もいれば、単調な形容詞を使うことも難しい子が数名おり、極端に書くことへの苦手意識をもつ子も少なくない。

○単元について

本教材は「たのしみは」という橘曙覧が作った独楽吟集の中から、短歌の一部を紹介している教材である。特徴は、特別なことが「たのしみ」なのではなく、曙覧が日常の中で感じる、些細な「たのしみ」を題材にしているという点である。そのため、子供たちにも題材を探す時の視点をもたせやすい。また、短歌という題材のため、字数制限が強制的にあるというのも大きな特徴である。決められた形式にあてはめる活動の中で、より言葉を吟味、精選することが必然的に求められる。子供が日常の中で「たのしみ」だと感じることを短歌にしていく活動を通して、言葉を増やしたり、より良い表現方法がないかと考えを深めたり、広げたりしやすい教材だと考える。

本単元では「六年一組独楽吟集を作ろう」という活動を設定した。短歌を作る活動の中で、「書く」項目の指導事項、「オ. 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること」「カ. 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと」を特に重点的に指導する。言葉の精選や、交流活動を通して、自分の作品をより良くしたり、友達の作品に具体的なアドバイスをしたりする力を高められると考える。単元の流れとしては、全三次で構成した。一次では、学習計画を立て単元全体が見通せるようにする。二次では、実際に短歌を作り、より表現に高めていく活動をする。三次では、互いの作品について交流をし、学習の振り返りとしてほしい。

○指導について

本単元では、まず導入で、子供が実際につくる短歌集を見せ、作ってみたいと思わせることが必要である。そこで、「先生たちの独楽吟集」という職員で作った独楽吟を見せ、意欲を高めたい。次に、短歌にするために、大きく三つのことを軸に学習を進める。一つ目は、極意書の活用だ。これで、言葉を広げるためのきっかけにしたい。二つ目は、推敲の活動だ。教師が作った二つの短歌を提示する。同じテーマだが、一つは特に工夫がない歌、もう一つは工夫の視点を入れた歌である。これを比較、推敲することで、その必要性や進め方を学ばせたい。自分の作品ができたときも、班の中でよりよい表現に高めるための交流活動を行うことで、自分では推敲が難しい児童も取り組みやすいと考える。三つ目は、解説書を書くという活動だ。自分が伝えたかった思いを、読者に読んでもらうことで、その解説書の思いが短歌に生かされているかを評価してもらいやすくするという狙いがある。この学習を通して、より言葉を精選して、日本語の美しさや豊かさに触れるきっかけにしたい。

5. 単元目標

- 自分の「たのしみ」なことについて意欲的に短歌を作ったり、友達の作品に助言したりしている。
- より良い表現について探り、自分の短歌に生かしている。

【日本語の目標】

- 「極意書」の中から自分が伝えたい気持ちに合った言葉を探し、使うことができる。

(日本語の目標 ウ)

6. 単元の評価規準

ア. 国語への関心・意欲・態度	イ. 書く能力	ウ. 言語についての知識・理解・技能
1. よりよい表現を探して、短歌を作ろうとしている。 2. 友達の作品に関心を持ち、進んで助言しようとしている。	1. 短歌のもつ表現の効果を確かめ、工夫している。(高Bオ) 2. 作った短歌について、表現の仕方に着目して助言し合っている。(高Bカ)	1. 短歌を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。(高Dイ)

7. 単元計画 (全6時間)

	次	時	学習活動	指導上の留意点	評価	日本語
六年一組 独楽吟集を作ろう	一	1	○学習計画を立て、単元全体の見通しをもつ。	・教師が作った独楽吟を見せることで、意欲を高めたり、必要な学習について考えたりする手助けとする。	・学習計画を立て、見通しをもつことができる。	
	二	2	○作者の短歌に出会い、短歌にしたい場面を集める。	・作者の作風から、特別なことを題材にしなくてよいことを確認し、題材集めに幅をもたせる。	㊦ 1. 作者の価値観やものの見方を知ることができる。	短歌の形式
		3	○短歌を作る。	・一つの場面でも、それが起こる前、真っ最中、余韻といったように色々な角度から書けることを押さえたい。	㊦ 1. 意欲的に、色々な角度から短歌を作ることができる。	余韻
		㊤ 本時	○二つの短歌を比較する学習を生かして、自分の作品を改良する。	・教師が作った、二つの作品を比較することで、工夫された作品にするための視点をもたせたい。	㊤ 1. 推敲する活動を通して、自分の作品をよりよくすることができる。	擬態語 擬音語
		5	○解説文を書く。	・自分が伝えたい感情について、解説文を書かせることで、交流会での視点をもたせる。	・自分の表現したいことを解説書に表すことができる。	
	三	6	○お互いのクラスで交流会を行う。	・クラス間交流を通して、初めての作品に出会うことで、よりアドバイスの重要性を感じさせたい。	㊦ 2. 友達の作品に関心をもって、親しむことができる。 ㊤ 2. 友達の作品の表現に着目し、助言す	

					ることができる。	
--	--	--	--	--	----------	--

8. 本時の展開 (4/6時間目)

ア 目標

○二つの作品について比較し、自分の作品をよりよくすることができる。

イ 日本語の目標

○(復習として)「推敲」「余韻」「擬態語」「擬音語」の意味がわかる。(日本語の目標 ア)

○「極意書」の中から見つけた色々な様子を表す言葉を使って、俳句を作ることができる。

(日本語の目標 ウ)

ウ ターゲットセンテンス

○「場面(においや音、情景)がはっきり浮かびますか」

「自分が表現したいことがより伝わる表現になっていますか」

エ 展開

学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準(方法)
①今日のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習の確認をすることで、短歌を作るとき の視点をはっきりさせる。 本時のめあてを確認し、見通しをもてるようにする。 	
自分が表現したいことが伝わるように、作品をよりよくしよう。		
②教師が作った短歌が工夫できな いか考え、作品を よりよくする時 の視点をもつ。	<p>A<たのしみは 夕食のとき テーブルで おいしいご飯を 食べているとき></p> <ul style="list-style-type: none"> 炊き立てのご飯を実際に見せることで、それを見なが ら、匂いや見た目まで表現を考えられるようにする。 児童から意見を自由に出させた後、作品Bを提示し、 手を加えた視点について考えさせる。 <p>B<たのしみは 匂いにさそわれ テーブルへ つやつやご飯 ほおばったとき></p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫している点と、その工夫の効果とを考えることで、 より場面を詳細に捉える必要があることを押さえた い。 作品を改良する視点を、「場面(においや音、情景)が はっきり浮かぶか」とし、そのためのポイントを3つ 提示することで、推敲の手助けとしたい。 	
③自分の作品につ いて推敲をして、 よりよい作品に する。	<ul style="list-style-type: none"> 極意書を活用することで、よりたくさんの形容詞や副 詞に出会えるようにする。 より場面を鮮明にするために、ウェブ図に付け足して も良いことを伝える。 「自分が表現したいことがより伝わるように」という視 点をもう一度押さえておくことで、推敲の視点を明確 にさせる。 自分の作品ができた児童には、友達に自分が伝えたか 	<p>○自分の作品をよ りよくしよう と、視点をもち ながら推敲して いる。 (児童の作品)</p> <p>(①-1)</p>

<p>④学習の振り返りをし、見直しをもつ。</p>	<p>ったことと、それをどう表現したかを交流させることで、友達工夫に出会えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">・児童の改善前と改善後の変化を紹介することで、推敲のよさを再確認できるようにする。・学習計画を確認することで、次時の学習の見直しをもてるようにする。	
---------------------------	--	--

1.小単元 なくそう おそろしい火事 (全10時間)

(中単元『安全で安心なくらし』のうち)

日時 平成28年10月19日(水) 5校時
児童 25名(男子14名 女子11名)

2.目標

- ◎災害から人々の安全を守るために消防署で働く人々や関係諸機関が、地域の人々と協力して災害の防止に努めていること、相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを理解できるようにする。
- ◎災害に備えて、地域の安全は互いに協力したり、ともに助け合ったりして守ること、自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であるという自覚を育てるようにする。

3.趣旨

《子どもの学びと教材》

本学級の子供たちは、何に対しても意欲をもって取り組み、学習で興味をもったことを進んで調べる子が増えてきた。前単元「健康でゆたかなくらし」の学習では、「水」「ゴミ」といった子供たちにとって身近な教材であったため、より興味を示し、意欲的に取り組んだ。中でも、「くらしとごみ」の小単元では、家庭からどんなゴミがでるのか、「くらしと水」の小単元では、学校の水道の蛇口はいくつあるのかを進んで調べる子もいた。しかし、生活体験が乏しく、課題見つけの段階での発問に対して、「家庭の水は水族館から来ます。」などというような思いもしない答えが返ってくることもある。さらに、わかりやすい言葉で、具体的な指示をしないと伝わらない子も多にいる。一方、見学で学んだことをノートや新聞に書くことは好きであり、意欲的に取り組んでいる。しかし、聞いたことや見たことを書くことで終わってしまい、授業で学んだことを自分の生活とつなげて、身近な問題として考えていくことができていない。学んだことを一生懸命覚えようとする素直な子が多いが、そこから一步深めて考えようとする力が育っていない。また、資料を見て、気付いたことをみつけることができてきたが、自分の考えに自信がもてていない子が多い。全員発表を取り入れたことで、正答がはっきりしている簡単なものには手を挙げるようにはなってきたが、自分の考えたことや感想を求めた時には、目線を下げ、一気に挙手の数が減る。そのため、いつも決まった子の発表となってしまうことが課題である。

本小単元では、普段目にしない消防のはたらきを取り上げる。消防のはたらきや火災設備を知ることで、火災や緊急事態が非日常ではなく、身近な問題としてとらえさせる。それによって、緊急事態の備えや火災時の対処などを意識づけさせ、地域社会の一員であるということを自覚させることをねらいとしている。消防署の見学などによって関係機関の連携を学ぶとともに、誰しもが想定していない緊急事態が起きた時には、地域の人々の協力が必要なことを理解し、自分ではできないことを多くの人がして下さっていることに感謝の気持ちをもたせたい。さらに、そこから自分は何ができるか、何をしてはいけないのかを考え、態度形成につなげていくことをねらいとしている。

《単元構想と指導・評価》

導入では、火災の写真から火災の恐ろしさや、気づいたことを考えさせ、興味関心をもたせる。自分たちの家や学校は火事に対しての備えがあるかを考えることで、自分たちにも関係があることに気付くようにする。

次に、火災から人々の命や町を守るための消防署はどのように動いているかを考える。消防署の見学に行く前には、写真や資料をもとに、消防の仕事とは一体どんなことをしている仕事なのかを考えさせたい。そして、実際に消防署に見学に行き、自分の考えたことと比較することや、学習時に疑問に感じたことを質問することで、より消防の仕事について考え、火災に対する備えの大切さを感じさせたい。そこから、火災に対して万全な体制を取らなければならない重要さなども考えてほしい。最後に火災が起きないために工夫について調べ、地域の安全のために働いている消防団や、震災以降火災が起きにくい町づくりの取り組みについても理解させ、個々の火災防止意識を高めたい。

本単元の指導にあたっては、子供たちが少しでも自分の意見や考えをもちやすいような資料や写真を用意する。そこから気づいたことをみつけさせ、子供たちが発言できる場を増やしていきたい。また、ペアやグループで相談して考えていいことにし、気づいたことを一人では見つけることが難しい子ども、意見がもてるようにしていく。少人数で話すことで、自信をもち、学級全体の発表につなげられるようにしていきたい。さらに、友達の意見を聞くことで、自分とは違う意見に目を向け、自分の中に少しでも取り入れてほしい。また、実際にあまり目にしない消防署の写真や資料を活用し、話し合うことで、火災や消防の仕事は自分たちの生活からかけはなれたものではなく、身近なものであるということを感じさせる。いつ自分の生活の中で起こるかわからないという認識をさせ、火災時の対応や緊急事態の備えに対しての考えるきっかけづくりとし、実際の生活に生かせるようにしたい。また、社会の中で安全に生きていく上で、何をすべきかを考えるきっかけとなるようにしたい。

4. 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・技能	知識・理解
◎地域社会における災害から人々の安全を守る工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べ、地域社会の一員として人々の安全を守るための自覚をもとうとしている。	◎災害から人々の安全を守る工夫について学習問題をもち、考えたことを自分の言葉でわかりやすく表現している。	◎消防署などの施設や設備などについて、見学して聞いたり、資料を活用したりして、地域社会における災害防止のための諸活動の様子について必要な情報を集めて、まとめている。	◎関係諸機関は地域の人々と協力して災害の防止に努めていることや、関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解している。

5.単元計画

第1次

学校や家庭の火災の備えは大丈夫だろうか。

学校は安全なのか ①②(導入)

校内の消防用設備を調べ、火災による被害を少なくする設備が計画的に設置されていることに気づく。

- ・火災の写真から、火災について考える。
- ・学校は火災に対して安全か考える。
- ・備えがあるか考える。
- ・消防設備を調べ、校舎図に書き込む。

わが家は安全なのか ③

自分の家の火災に対する備えを調べ、火事から守るためにいろいろな準備をしていることに気づく。

- ・家で火災がおこりやすいところを考える。
- ・自分の家は大丈夫なのか話し合う。
- ・火事を起こさないために何ができるか考える。

第1次

！身の回りには、いろんな消防用設備がある。
！火事を起こさないために気をつけないとけない。
？火事が実際に起こったら、どうするのだろう。

消防用設備・安全・住宅用火災警報器・消火栓・
防火水槽・感知器

第2次

火災から命や町を守るために消防署はどんな働きをしているのだろうか。

消防署見学の計画 ④(本時)

写真を見て、火災時の消防の仕事について考え、関心を高める。

- ・火事が起きた時、何をするか考える。
- ・消防の仕事について話し合う。
- ・消防署での質問を考える。

消防署の仕事 ⑤⑥

消防署を見学し、消防士が一刻も早く出動し安全に火事を消すように徹底され、救急や救助のための装備もあることを知る。

- ・消防署の工夫を調べる。
- ・見学して気になることを質問する。
- ・火災現場で大切なことは何か考える。

第2次

！火災に備えて、万全の準備をしているんだな。
！火災の時は様々な人が協力しているんだな。
？地域では、どんな備えをしている

消防士・管制室・救急隊・119番・AED・
消火、救助、降下訓練

消防士の仕事 ⑦

消防士の普段の仕事について調べ、普段からいざという時に備えて、様々な訓練や設備の点検を怠らずしていることに気づく。

- ・消防士の1日の仕事を調べる。
- ・普段から念入りに点検や訓練を続けているわけを考える。
- ・出動指令はどこからくるのか予想する。

119番のしくみ ⑧

119番通報の仕組みを調べ、管制室が火災時に近くの消防署や関係諸機関と連携し、効率的で素早い消火を目指していることに気づく。

- ・119番はどこにつながるかを予想する。
- ・管制室の仕組みを調べる。
- ・119番通報が全て管制室につながるわけを話し合う。

第3次

！消防署や消防団の人によって私たちの命はまもられているんだね。

！安心して暮らせるね。

消防団・防災福祉コミュニティ・災害

第3次

自分たちの町では火災に対してどのような備えをしているだろうか。

町の安全を守る人々 ⑨

消防団の仕事や仕組みについて調べ、その役割や地域の安全を守るための活動の大切さを考える。

- ・消防団と消防署の仕事の違いを予想する。
- ・消防団の仕事や仕組みについて調べる。
- ・消防団の活動が必要なわけを話し合う。

生かそう震災体験 ⑩

神戸の防災の仕組みは、どのように変わってきたのか調べ、地域の人たちが協力して災害に備えていることを知る。

- ・震災時の写真や当時の消防士の様子を調べる。
- ・震災時にどんなことに困ったのかを考える。
- ・「防災福祉コミュニティ」が生まれたわけを話し合う。
- ・「防災福祉コミュニティ」の活動を調べ、自分にもできることを考える。

本時の学習（第2次・第1時 /全10時間）

【本時の目標】 写真を見て、火災時の消防の仕事について考え、関心を高める。

【日本語の目標】 消防の仕事について、「この資料を見て、□□□仕事をしていると思いました。なぜなら、○○○だからです。」と自分の意見を言うことができる。

<過程>

子どもの活動(●)と内容(・)	<p>●実際に火事が起こったら、どうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水をかける。 ・指示を仰ぐ。 ・消防車を呼ぶ。 ・119番に電話する。 ・消火器で消す。 	<p>●火災時に、消防はどんな仕事をしているか出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火を広げないために早く消す。 ・人の命を守っている。 ・人を助けている。 	<p>●大きい火災の写真を見て、消防の仕事について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○番の資料を見て、高いところの火を消す仕事をしていると思いました。なぜなら、火が広がらないようにヘリコプターを使っているからです。 	<p>●消防署の人に聞きたいことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いビルの火災の際、隣のビルから火を消すと考えるのですが、どうやって消しているんですか。 ・消防の仕事で困ったことはありますか。
教師の支援(○)と留意点(・)	<p>○燃え広がっていない火災の写真から、自分だったらその時どうするかを色々言わせる。</p> <p>○次に燃え広がってしまった火災の写真を見せ、その場に出くわした際、どうすることができるかを考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃え広がった火災から、自分では対応できず、消防署に連絡することにつなぐ。 	<p>○消防車、消防士、消防署の写真を見せながら、3つについて整理する。</p> <p>○消防が火災現場でどんな仕事をしているか想像させ、知っていることを出さずようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ考えや意見でも、自分の言葉で言うよう促す。 	<p>○ワークシートを配り、考えたことを書くようにする。</p> <p>○何を書いていいのかわからない子には、この現場からどんなことに困っているかを考えさせてから、消防の仕事を考えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防の仕事をたくさん想像させ、質問につなげられるようにする。 	<p>○学習したことを深めて知りたいことや聞きたいことをノートにまとめさせる。</p> <p>○まとめたことをみんなに発表し、より話を深めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で疑問に感じたことやもっと知りたいことを書かせ、次々の見学につなげたい。
評価 消防の仕事に関心をもつことができたか。(発言・ノート)				